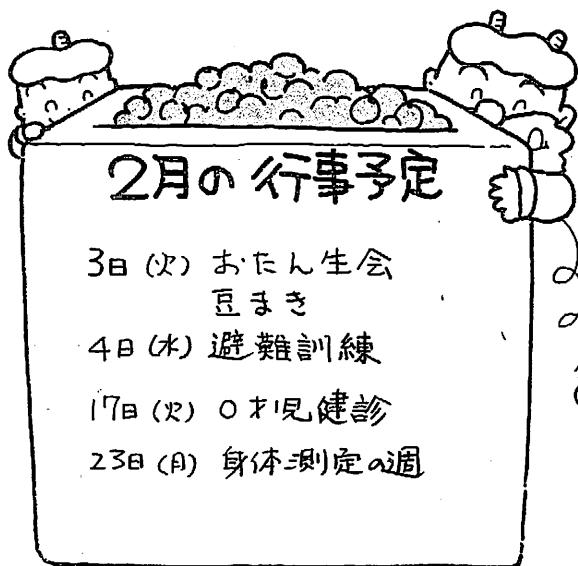




太陽の子保育園 H16.2.2.

節分を過ぎると立春。「春はそこまで」とはいっても、まだまだ寒いですね。でも「寒い」と言っているのは 大人だけ…。

子どもたちは「お散歩!」「お外であそぼう!」の声に大喜びです。寒くとも、お外大好きなのです。毎日元気にすこしあげる様に子どもたちの年令、体調に合ったお休みのすこし方など、街家庭に街協力をいたたまながら、健康で2月を乗り切っていきましょう。



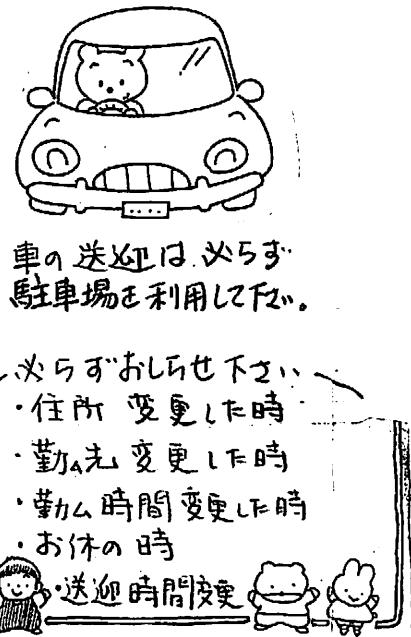
2月の行事予定

3日(火) お誕生日会
豆まき

4日(水) 避難訓練

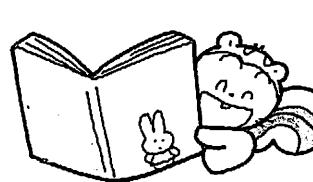
17日(火) オオタ健診

23日(月) 身体測定の週



車の送迎はめらす
駐車場を利用して下さい。

- めらすおしゃせ下さい
- ・住所変更した時
- ・勤先変更した時
- ・勤務時間変更した時
- ・お休の時
- ・送迎時間変更



(豊か) (よ) (じ) (ほ) (こ) (と) (ほ) (から) (始) (ま) (る)

お茶の水女子大学名誉教授の外山滋比呂さんは、身体の発達に栄養が欠かせないと同じく、頭の発達には、さり役立つのが言葉です。今子どもは、テレビ、ゲームに囲まっています。テレビは話しかけても、反応しませんね。次第に話さなくなってしまう。言葉のやりとりで、相手と触れ合ってコミュニケーションをとれるなど、すみれち、人間関係を経験することで、言葉も覚えられるのです。

・読み聞かせは向き合って… 子どもに向かってどういう表情をするか、反応を見ながら、お話しをあげることが大切。

具体的には本を真ん中に置いて向かい合って、「この後どうなるのだろうね?」「おもしろいね」と言いつながら親子の会話をの中に絵本があるとうくらいで良いと思います。

・動詞は体を動かして覚える… 同じ言葉をくり返して使うようにしていく。

大事なのは動詞を体の動かし方に一緒に覚えさせる。名詞は頭で理解する言葉。歩くという言葉も実際に歩いてみて「知覚」ではなく初めて自分の言葉になる。

*昔の人が言葉を大事にしたのは便利だけではなく、言葉によって、心や内面を高めることができるという事を知っていたからだと思います。実際に話せるか、話せないかは別として、心の言葉の貧しい子は、心をもがくが貧しい。小さく時から、やさしく、あたたかく、言葉を伝えるのは、心を養うためなんですよ。

・耳でよく聞く習慣を… 読み聞かせて言えば、同じ話を10回以上聞かせる事が大事。しかし寝る前などの時間が集中して(明るいと注意力も散漫になてしまう)話す言葉に耳を傾けます。それが抽象的な概念や想像力を養うことになります。聞く耳が鍛えられないれば、外国語も覚えられません。

・今は少子化。その意味で母が賢くなればいい。また母親は子育てを通して人間的に賢くなっていくのです。愛情をもって言葉を伝え、「人間」を育てる…これ以上に大事な仕事はありません。…以上。

…あと、女性の声は抑揚に富んでいて、子どもの耳に残るのです。とあります。どんな声でどんな言葉が、子どもたちに今まで入っていくの?どうか?…それが心に引っかかるいろいろ…。